

## メタファーの日米比較 ー日常化したメタファーの考察ー

熊倉 健介

## 要約

本研究は、普段何気なく使っている言葉を、しいては日本語・英語の両文化を改めて見つめ直す試みである。ここでは、英語話者とのメタファーの認識のギャップを埋めるために、日本語話者と英語話者のメタファーの認識の差異を明らかにする。

調査では、アンケートを日本語話者4名・英語話者4名の計8名の被験者に依頼し、37の例文を7段階でメタファーであるか否かを判断をしてもらった。また、事後アンケートにてその判断基準を尋ねた。これらのアンケートからはメタファーの認識の差異や度合い、差異の生じる理由を探った。

結論として、メタファーの認識の差異を探るには二つのアプローチがあるという示唆を得た。第一は、言語を変数として、メタファー内の差異を測る方法である。第二は、文化を変数として、文化内におけるメタファーの役割という変数を導く方法である。しかし、データ不足のためどちらの根拠も明確ではない。この二つの方法を確立するためには、そのための道具を創り、実証する必要がある。

## 1. 序

文化とはそこに住める者が表現してきた集大成である。特に我々が表現する言葉や絵画、音楽にはメタファー（比喩）<sup>1</sup>が多分に登場する。メタファーはあるものを何らかの関係のあるものに例えて表現する技法である。広義の意味でメタファーを考えると、言葉だけでなく、視覚的・聴覚的表現技法としてもその概念はある物を例えることに成功している。我々の文化はまさにこのメタファーによって表現されている。

日本人は第一言語として日本語を学び、義務教育として英語は6年間も学んでいる。しかし、多くは英語話者と同様な理解までは至っていない現状である。日常生活の言語使用において、第一言語話者にしか出来ない微妙なニュアンスの判断は不可欠である。メタファーの認識も第一言語話者にしか出来ない微妙なニュアンスの判断によるものである。

<sup>1</sup> 広義で、ある事柄を何らかの関係のある事柄に例えて表現すること（比喩）。狭義では、隠喩であり、「～のようだ」を使わないで例えること。本稿では主に広義の意味で扱っていく。

そこで、今回は言葉の面からメタファーにアプローチを試みる。例えば、Lakoff & Johnson(1980)によると「ARGUMENT IS WAR」というメタファーは英語話者にとって日常化した概念である。しかし、日本語では「議論は戦争である」となるが、はたしてこの文章を見たとき、日本人はこの概念を理解することができるのだろうか。文化が異なれば、我々を取りまく環境や使用する言語も変わってくる。「議論」を、戦略を駆使し勝ち負けを決める「戦争」に例えたこのメタファーは、文化背景によっては成立しないという可能性も考えられる。異文化においてメタファーの認識は異なる可能性があるのだ。

本稿では日米間においてメタファーの認識に差異はあるのか否かを明らかにしてみたい。もし差異が確認されたら、どのような差異なのか、差異に度合いはあるのか、また、なぜ差異が生じるのかを考察する。おそらく、メタファーの認識の差異は存在する。そのことが第二言語習得の妨げの一要因になっているのではないだろうか。日本語話者と英語話者のメタファーの認識の差異を明らかにして、英語話者とのメタファーの認識のギャップを埋めると共に、普段何気なく使っている言葉を、しいては日本語の文化、英語の文化を改めて見つめ直してみる。

## 2. 先行研究

メタファーの概念は、以下で渡部他(1986,p.3)がLakoff & Johnson(1980)を参考にして述べているように、日常に浸透している。「メタファーというのは言語だけに特有のものであって、思考や行動の問題であるよりは言葉遣いの問題であると普通一般には考えられている。ところが、われわれ筆者に言わせれば、それどころか、言語活動のみならず思考や行動にいたるまで、日常の営みのあらゆるところにメタファーは浸透しているのである。われわれが普段、ものを考えたり行動したりする際に基づいている概念体系の本質は、根本的にメタファーによって成り立っているのである」。彼らは自身の研究において、メタファーであることがもはや意識されていない死喩(*dead metaphor*)、つまりは習慣化してしまったメタファーの分析を通して、メタファーとは考えられていなかった日常言語の背後に潜む概念メタファー(*conceptual metaphor*)<sup>2</sup>の体系を築いた。

しかし、すべてのメタファーが死喩化しているわけではない。あの世界的に有名なMartin Luther King, Jr.はスピーチにメタファー(広義)を分かりやすく、効果的に使用しているという評価を得ている。これは聴衆が彼のスピーチ内のメタ

---

<sup>2</sup> 認知言語学の用語で、「ある概念領域を別の概念領域を用いて理解する事」と定義される。

ファーを強く認識していることの表れである。日常化した死喩や King の効果的なメタファーを考えると、メタファーに確かに認識の度合いは存在するようである。

心理学での研究においては、メタファーの発達の研究が多く見られる。Winner, Rosenstiel, & Gardner (1976)では人は成長するにつれて、高次のメタファーの理解が可能になることを示唆している。人の成長過程において、メタファーは物事の理解を实らせる上での肥料になりえる。このことは、芳賀他(1990,p.9)が Lakoff & Johnson(1980)を参考に「メタファーの本質はあることがらをもう1つのがらを通して理解し、経験すること」で、「人間の思考過程の大部分が比喩的なもの」になると指摘していることから分かる。

以上のことを踏まえると、使用するメタファーは意識されず、死喩になっている場合があることや、メタファーを獲得する過程でその熟達度が変わることが明らかにされている。しかし、本稿の調査目的である日米間のメタファーの認識の差異を明らかにした先行研究を見つけるには至っていない。

### 3. 仮説

ここで「日本語話者・英語話者の両者間において、メタファーの認識に差異は存在する。」と仮定する。特に、我々が言語を使用する際に、ある表現をメタファーだと認識せず、無意識のうちに使用している場合、その表現は死喩となる。その死喩の認識の違いによって、日本語・英語の持つメタファーの特徴を考察し、それぞれの文化的背景を明らかにする。

## 4. 調査

### 4. 1. 目的

アンケートでは、日本語・英語の各例文がメタファーであるかどうかという被験者の認識の度合いを測定し、メタファーに対する認識の違いを明らかにすることを目的としている。また先に述べておくが、被験者の数が著しく少ないため、データの信頼性を欠く結果が予想される。しかし、次回の実験のデザインの妥当性や信頼性を高めるためのパイロットテストとして役立て、今後、メタファーの認識の差異を測定する道具としての基盤としたい。

### 4. 2. 手順

7段階の評定法を用いたアンケートを、計8名の被験者に依頼した。日本語話

者には日本語で書かれたアンケートを、英語話者には英語で書かれたアンケートを使用した。調査は個別にアンケートを配布し、制限時間は設けなくて、回答してもらった。メタファーの定義を確認後、それぞれ各文の評定を行ってもらった。アンケートの後、日を改めて各被験者が評定を下した理由を事後アンケートによって調査した。事後アンケートも個別に行い、各自が回答した一回目のアンケートを振り返りながら、回答してもらった。

#### 4. 3. 被験者

岩手大学関係者8名に実験に協力してもらった。日本語を第一言語とする者4名は無作為に学生1名と事務職員3名を選び、英語を第一言語とする者4名については該当者の数が著しく制限されたため留学生2名と教授2名に限定された。先に断っておくが、被験者の数は必ずしも十分とは言えず、更なるデータ収集の必要性がある。また、日本語話者・英語話者における社会的立場及び年齢等を統一できなかった。これも次回には統一できるようにしたい。

#### 4. 4. 材料

##### 4. 4. 1. アンケート<sup>3</sup>

###### ・メタファーの定義

比喩表現かどうかの判断材料として、Quirk (1995) から引用した Metaphor (広義：比喩、狭義：隠喩) の定義をアンケートの文頭に示した。日本語訳は筆者が訳したものを使った。また、本来この調査ではメタファーは広義で扱っているので定義に「『ようだ』を使わないで」や「without using the words 'like' or 'as'」を入れる必要はなかった。しかし、例文には「ようだ」を使って表現する直喩はなかったため、メタファーかどうかを判断してもらうには問題はなかった。

日本語話者：

「ようだ」を使わないで、あるものを他の何らかの関係のあるものに例えて表現する方法

英語話者：

a way of describing something by comparing it to something else that has similar qualities, without using the words 'like' or 'as'

###### ・例文の評定法

ボックス1のような7段階の評定法で被験者にアンケートを依頼した。このアンケートのパイロットテストでは5段階で行ったのだが、より詳細は認識の度合

<sup>3</sup> 本文内にもアンケートの内容を部分的に載せているが詳細は付録を参照して頂きたい。

いを測定するために7段階に増やした。ボックス1の文頭に示した文で、「この文」に各例文を当てはめ、その文が7～1のどれに当てはまると思うか判断してもらい、数字に丸をつけてもらった。

## ボックス1

日本語話者:

私はこの文が比喩表現であるということに( )。

7(絶対賛成である)

6(賛成である)

5(やや賛成である)

4(どちらでもない)

3(やや反対である)

2(反対である)

1(絶対反対である)

- |                         |               |
|-------------------------|---------------|
| 1. 君の主張は守りようがない。        | 7・6・5・4・3・2・1 |
| 2. 彼は私の議論の弱点をことごとく攻撃した。 | 7・6・5・4・3・2・1 |
| 3. 彼の批判は正し款的を射ていた。      | 7・6・5・4・3・2・1 |
- (以下省略)

英語話者:

I ( ) that this sentence is a metaphorical expression.

7 (strongly agree)

6 (agree)

5 (partly agree)

4 (neither agree nor disagree)

3 (slightly disagree)

2 (disagree)

1 (strongly disagree)

- |   |               |
|---|---------------|
| 1. Your claims are indefensible.                | 7・6・5・4・3・2・1 |
| 2. He attacked every weak point in my argument. | 7・6・5・4・3・2・1 |
| 3. His criticisms were right on target.         | 7・6・5・4・3・2・1 |
- (以下省略)

## ・例文の選別と妥当性

英語話者への質問項目として、Lakoff & Johnson (1980)において例証されている何十もあるメタファーのグループの中から、被験者に理解しやすいと思われるもの「ARGUMENT IS WAR」「TIME IS MONEY」「LOVE IS A JOURNEY」の3つの例文を採用した。日本語話者には同様の例文を渡部他(1986)の翻訳を採用した。これは筆者が訳をするより、原文に忠実な訳になると判断したためである。また、例文選別の際、被験者には一文だけでメタファーかどうかを判断してもらうために、一文で意味が容易に理解できないものは除外した。

さらに、被験者のメタファーの定義が統一されたことを確かめるため、Lakoff & Johnson(1980)が提唱した概念メタファーを組み入れた。概念メタファーはあ

る概念を他の概念に例えて認識することと定義されている。概念メタファーの典型例としては、「Argument is war.」「Time is money.」「Love is a journey.」である。つまり、これらはアンケートにおいて定義したメタファーの典型例となる。このアンケートで、被験者にメタファーの定義が統一されれば、この概念メタファーはほぼ「7（絶対賛成である）」や「7 (strongly agree)」と判断されるであろうと推測した。そうならば、他の文の認識の度合いを判断する上での一つの基準になり、このアンケートの妥当性も高まることを期待して質問の中に組み入れた。例えば、ボックス2のアンケートの例文1～8のグループ(「議論は戦争である」「ARGUMENT IS WAR」)の8がそれに当たる。そして、概念メタファーはグループの最後に配置してある。被験者が1～7の例文を判断する際に、始めから「議論は戦争である」という先入観を持たせないようにするためである。1～7のメタファーは8の概念を基にしているメタファーであるため、グループの最初に配置した場合、以降の例文の判断にその概念が影響してしまうことを懸念した。筆者の意図として、例文はあくまで他の影響がない状況で、一文で判断して欲しかった。

## ボックス2

## 日本語話者:

- |                          |               |
|--------------------------|---------------|
| 1. 君の主張は守りようがない。         | 7・6・5・4・3・2・1 |
| 2. 彼は私の議論の弱点をことごとく攻撃した。  | 7・6・5・4・3・2・1 |
| 3. 彼の批判は正し克的を射ていた。       | 7・6・5・4・3・2・1 |
| 4. 私は彼の議論を粉碎した。          | 7・6・5・4・3・2・1 |
| 5. 私は彼の議論に一度も勝ったことがない。   | 7・6・5・4・3・2・1 |
| 6. 異論があるだと。よし、撃ってみよう!    | 7・6・5・4・3・2・1 |
| 7. 彼は私の議論をすべて撃破した。       | 7・6・5・4・3・2・1 |
| 8. 議論は戦争である。             | 7・6・5・4・3・2・1 |
| 9. 君は僕の時間を浪費している。        | 7・6・5・4・3・2・1 |
| 10. この機械装置を使えば何時間も節約できる。 | 7・6・5・4・3・2・1 |
- (以下省略)

## 英語話者:

- |   |               |
|---|---------------|
| 1. Your claims are indefensible.                | 7・6・5・4・3・2・1 |
| 2. He attacked every weak point in my argument. | 7・6・5・4・3・2・1 |
| 3. His criticisms were right on target.         | 7・6・5・4・3・2・1 |
| 4. I demolished his argument.                   | 7・6・5・4・3・2・1 |
| 5. I've never won an argument with him.         | 7・6・5・4・3・2・1 |
| 6. You disagree? Okay, shoot!                   | 7・6・5・4・3・2・1 |
| 7. He shot down all of my argument.             | 7・6・5・4・3・2・1 |
| 8. Argument is war.                             | 7・6・5・4・3・2・1 |
| 9. You're wasting my time.                      | 7・6・5・4・3・2・1 |
| 10. This gadget will save you hours.            | 7・6・5・4・3・2・1 |
- (以下省略)

#### 4. 4. 2. 事後アンケート

被験者にボックス3の内容を一回目のアンケートを振り返りながら回答してもらった。認識の度合いに差異が生じた場合、差異が生じる理由を解明するため、被験者本人に判断の基準を質問した。また、被験者が判断できない場合もあることを考慮に入れて、第五問も組み込み、その理由を質問した。

##### ボックス3

日本語話者:

第一問

それぞれの文を判断するとき、賛成(7・6・5)を選んだ理由を教えてください。

第二問

それぞれの文を判断するとき、反対(3・2・1)を選んだ理由を教えてください。

第三問

7か6か5を選ぶとき、それは何を基準にして選びましたか。違いは何ですか。

第四問

3か2か1を選ぶとき、それは何を基準にして選びましたか。違いは何ですか。

第五問

4を選んだ方は、次の質問に教えてください。4を選んだ理由を教えてください。

英語話者:

**Question 1**

When judging each sentences, write the reason you selected the agreement(7・6・5).

**Question 2**

When judging each sentences, write the reason you selected the disagreement(3・2・1).

**Question 3**

When choosing 7, 6, or 5, did you select it based on what?

What is the difference between them?

**Question 4**

When choosing 3, 2, or 1, did you select it based on what?

What is the difference between them?

**Question 5**

Answer the following question, if you selected 4.

Write the reason you selected 4.

#### 4. 5. 分析方法

一回目のアンケートでは日常化した死喩を特定することができ、またそうでないメタファーも特定できる。3・2・1の「反対」とみなされたメタファーが死喩に当たり、7・6・5が死喩ではないということになる。これによって、日本語・英語話者間に共通点・相違点が確認できることを期待した。

事後アンケートでは、質問1・2からはメタファーであるかどうかを判断する基準、質問3・4では被験者が認識しているメタファーの度合い、そして、質問5からはメタファーかどうかを判断できない理由を得ることが出来る。

二つのアンケートを照らし合わせて、日本語・英語の持つメタファーの特徴を考察し、両者の文化的背景を明らかにする。

## 5. 結果

調査結果は表1・2にまとめた。

表1 集計結果(日本語話者)

	A						A'			
	絶対賛成(7)	賛成(6)	やや賛成(5)	どちらでもない(4)	やや反対(3)	反対(2)	絶対反対(1)	賛成(7・6・5)	どちらでもない(4)	反対(3・2・1)
日本語を第一言語とする者4名 (学生1名・事務スタッフ3名)										
1 君の主張は守りようがない。	0	0	1	1	0	2	0	1	1	
2 彼は私の議論の弱点をこごとく攻撃した。	0	1	1	1	0	1	0		1	1
3 彼の批判は正し克的を射ていた。	0	0	1	0	0	0	0		0	0
4 私は彼の議論を粉砕した。	0	2	1	0	0	1	0		0	1
5 私は彼の議論に一度も勝つたことがない。	0	0	1	1	0			1	1	
6 異論があるだと。よし、撃つてみよう!	0	1	0	1		0	1	1	1	
7 彼は私の議論をすべて撃破した。	0	2	1	0	0	1	0		0	1
8 議論は戦争である。	0	1	0	0	0	0	0		0	0
9 君は僕の時間を浪費している。	0	0	1	0	1	2	0	1	0	
10 この機械装置を使えば何時間も節約できる。	0	0	0	0	3	0	0	0	0	
11 君にやれる時間の持ち合わせはないよ。	0	0	2	0	1	1	0	2	0	2
12 この頃どんなふうにも時間を使っているの。	0	0	1	0		2	0	1	0	
13 あのパンクしたタイヤを修理するのに1時間かかった。	0	0	0	0				0	0	
14 彼女に時間をずいぶんさいてやったよ。	0	1	0	0			0	1	0	
15 そんなことに費やせる暇はないよ。	0	1	0	0		2	0	1	0	
16 時間がなくなってきたよ。	0	0	0	0		2	0	0	0	
17 時間を配分する必要がある。	0	0	1	0	0	2	0	1	0	
18 ピンポンをする時間をとっておいてよ。	0	0	0	0		2	1	0	0	
19 それは時間を費やすだけの価値があるのかい。	0	0	0	0	1	3	0	0	0	
20 時間はたっぷり残してあるかい。	0	0	1	0	0	3	0	1	0	
21 彼は借りてきた時間で生きている。(=思いがけなく長生きしている)	0	1	0	1		1	0	1	1	
22 君は時間を有益に使っていない。	0	0	0	0	1	5	0	0	0	
23 病気になって、時間をたっぷり無駄にしてしまった	0	0	0	0	1	3	0	0	0	
24 時は金である。	2	1	0	1	0	0	0		1	0
25 ごらんぼくらの愛が乗り越えてきた幾山河を。	1	3	0	0	0	0	0		0	0
26 二人は岐路に立っている。	1	2	1	0	0	0	0		0	0
27 別々の道を行かなければならなくなるだろう。	1	1	1	0	1	0	0		0	1
28 ぼくらはもう引き返せない。	0	0	1	0	1	2	0	1	0	
29 この関係がどこかに到るとは思わない。(=うまくいくとは思わない)	0	1	1	0	1	1	0	2	0	2
30 わたしたちはどこにいるのかしら。(=どうなるのかしら。)	0	1	2	0	0	1	0		0	1
31 ぼくらは行き詰ってしまった。	0	0	1	1		1	0	1	1	
32 この関係は袋小路だ。	1	2	0	1	0	0	0		1	0
33 ぼくらは車輪を空回りさせているだけだ。	1	3	0	0	0	0	0		0	0
34 ぼくらの結婚は暗礁に乗り上げている。	2	2	0	0	0	0	0		0	0
35 ぼくらは脱線してしまった。	1	1	1	0	0	1	0		0	1
36 この関係は沈没しかかっている。	1	1	1	0	0	1	0		0	1
37 恋愛は旅である。	2	2	0	0	0	0	0		0	0





表1・2のA列・A'列には評定結果を示した。またB列・B'列には7・5・6は「賛成」として、3・2・1は「反対」としてまとめ、例文が「賛成」「どちらでもない」「反対」のどれに多数の回答を得られたのかを示した。その項目には網掛けを施した。さらに、A・A'の項目にも、B・B'の基のデータに当るものに網掛けを施した。

1～8、9～24、25～37はそれぞれ「ARGUMENT IS WAR」「TIME IS MONEY」「LOVE IS A JOURNEY」のグループに分類されている。分類された文の順序はアンケートと同じである。

具体的な考察は次章で典型例から挙げていき、次に特殊な例や特記すべき事を述べていく。その際、事後アンケートの理由も随時述べていくことにする。

## 6. 考察

### 6. 1. 定義の統一性

ボックス4

(8) 議論は戦争である。	(8) Argument is war.
(24) 時は金である。	(24) Time is money.
(37) 恋愛は旅である。	(37) Love is a journey.

これらの全項目がほぼ「7(絶対賛成である)」「7(strongly agree)」という結果になった。これで、被験者のメタファーの定義は統一されたとと言える。

### 6. 2. 概観

表1・2を概観してみると、程度に差はあるが、日本語話者も英語話者も類似した傾向が確認できる。特に「TIME IS MONEY」のグループはどちらもほぼ「反対」の意思を示した。逆に「ARGUMENT IS WAR」「LOVE IS A JOURNEY」のグループは「賛成」色が強い。相違点としては日本語話者は賛否を判断する際に「6(賛成である)」や「2(反対である)」を多く選ぶ傾向が見られる。一方で、英語話者は「7(Strongly agree)」や「1(Strongly disagree)」を多く選ぶ傾向を示した。このことは日米間での特徴的な差異に当たる。つまり、日本語話者と英語話者ではメタファーの認識の度合いが違うことが示唆される。しかし、意外にも両者において相違点よりも類似点の方が多結果となった。

以降では、より詳細な考察を試みる。

## 6. 3. 日本語と英語の共通した「賛成」項目

ボックス 5

(3) 彼の批判は <u>正し</u> 的を射ていた。	(3) His criticisms were <u>right on target</u> .
(4) 私は彼の議論を <u>粉碎</u> した。	(4) I <u>demolished</u> his argument.
(7) 彼は私の議論を <u>すべて撃破</u> した。	* (7) He <u>shot down</u> all of my argument.
* (26) 二人は <u>岐路</u> に立っている。	* (26) We're <u>at a crossroads</u> .
* (32) この関係は <u>袋小路</u> だ。	* (32) This relationship is <u>a dead-end street</u> .
* (33) ほくらは <u>車輪</u> を空回りさせているだけだ。	* (33) We're just <u>spinning our wheels</u> .
* (34) ほくらの結婚は <u>暗礁</u> に乗り上げている。	* (34) Our marriage is <u>on the rocks</u> .
(35) ほくらは <u>脱線</u> してしまった。	* (35) We've gotten <u>off the track</u> .
(36) この関係は <u>沈没</u> しかかっている。	(36) This relationship is <u>foundering</u> .

下線は渡部他 (1986) の例文と同様に付してあるが、英文はイタリック体を下線にした。また、ここでの「\*」はこれらのグループ内で、比較的多数の回答が得られたものに付している。以降、「反対」も同様の理由で「\*」を付している。

事後アンケートで賛成を選んだ理由では日本語話者にも英語話者にも類似した理由が見られた。「その文章をよんだときに、そのもののイメージがわく。」(日本語話者) や「I imagined someone with a gun shooting.」(英語話者) のように、どの文も下線部分があるいは文全体を頭のなかで容易にイメージできるものが多い傾向にある。留意しておくが、以後「」内の日本語は日本人話者、英語は英語話者による回答として扱うことにする。

しかし、厳密には被験者による認識の度合いは異なる。度合いの違いが起こる理由として、両者から得られた理由は「イメージが強いかわ弱いかわ」「the strength of the image in my head」「the strength and clarity of the imagery, fostered (brought about) by the metaphor」が挙げられる。英語話者はほぼ全員が比喻のイメージの強さを理由に挙げていた。一方で、日本語話者からは「自分の自身度」「感じ方」「5・6に関しては比喻だと感じたが、あまりなじみがないため、やや抵抗を感じる面もあった。」と英語話者に比べるとその理由は多様で、若干あいまいな印象を受ける。そのせいか日本語話者にとってボックス5の文は「(6) 賛成である」という項目がほぼ2人になっているが、一方で英語話者の場合、特に「\*」のついた文の「(7) Strongly agree」に3人から4人という結果になっている。これは、英語話者の方が日本語話者よりもメタファーをより明確に認識しているという示唆を与える。

## 6. 4. 日本語と英語の共通した「反対」項目

## ボックス 6

(1) 君の主張は守りようがない。	* (1) Your claims are <u>indefensible</u> .
* (5) 私は彼の議論に <u>一度も勝ったこと</u> がない。	(5) I've <u>never won</u> an argument with him.
(9) 君は僕の時間を浪費している。	(9) You're <u>wasting</u> my time.
* (10) この機械装置を使えば <u>何時間も節約</u> できる。	* (10) This gadget will <u>save</u> you hours.
(12) この頃 <u>どんなふう</u> に時間を <u>使っ</u> ているの。	* (12) How do you <u>spend</u> your time these days?
(15) <u>そんなことに費やせる暇</u> はないよ。	(15) I don't <u>have enough</u> time to <u>spare</u> for that.
(19) それは時間を費やすだけの <u>価値</u> があるのかい。	(19) Is that <u>worth your while</u> ?
* (20) 時間は <u>たっぷり残</u> してあるかい。	(20) Do you <u>have</u> much time left?
* (23) 病気になって、時間を <u>たっぷり無駄</u> にしまった。	(23) I <u>lost</u> a lot of time when I got sick.
(28) <u>ぼくらはもう引き返</u> せない。	* (28) We can't <u>turn back</u> now.

ここでの特徴は、日本語話者も英語話者も概念メタファーである「時は金である」「TIME IS MONEY」がメタファーであると判断しているのだが、これ以外の文はほぼメタファーではないという判断をしている。理由としては「通常使用する言葉と感じられた」「普段から使うような表現」「自分にとって日常的に聞くことがあったり、自然な表現だと感じた」「そのまま素直に言葉通りに意味を理解することができた」などであった。特に日本語話者にとっては普段から良く使うという理由で、メタファーであることが意識されていない。日本語話者の一人は「文章を読んだとき、そのもののイメージがわからない。」という理由で、次に示す英語話者と酷似した理由を挙げた。英語話者の理由としては、「a image did not come to my mind」「the word did not give me any image other than the literal meaning of the sentence」と彼らは字義以上のイメージがわからないと言っている。また英語話者の一人には「Some of the expressions such as “You’re wasting my time” are used so regularly that I forget they are metaphorical expressions.」という理由があった。まさに、この英語話者にとってみればこれらのメタファーは習慣化し、死喩になってしまったと言える。

また、被験者による認識の度合いについては、「3については、日常的なふつう表現としては違和感を感じ、話し手によるやや何らかの意味が含まれている、比喩表現であるように感じた」「2・1についてはほとんど日常的でふつうな表現だと思った。」「It depends on how often the expression is used.」のようにこれらの表現が日常的かどうかを判断材料にしている。。

## 6. 5. 日本語－「賛成」・英語－「反対」の項目

## ボックス7

- |                              |   |
|------------------------------|---|
| (2) 彼は私の議論の弱点をことごとく攻撃した。     | (2) He attacked <u>every weak point</u> in my argument. |
| * (25) ごらんぼくらの愛が乗り越えてきた幾山河を。 | (11) I don't <u>have</u> the time to <u>give</u> you.   |
| (27) 別々の道を行かなければならなくなるだろう。   | (27) We'll just have to <u>go our separate ways</u> .   |
| (30) わたしたちはどこにいるのかしら。        | * (30) <u>Where</u> are we?                             |

ここで注目したいのが (25) の表現で、特に多数の回答が得られた。2名の日本人話者からの意見で、「通常使用されない」「自分があまり使わないような表現」という理由があった。また、(25) に限定した理由ではないが、「人が用いているのを聞いたとき、話の“うまい”人だと感じる」という「賛成」の理由も見られた。このことから (25) のような表現は、上手な話し方の一要因に成る可能性も示された。

(2) (27) (30) の日本語・英文を照らし合わせてみると、被験者はデータ上明らかに賛否逆の判断を下しているのだが、残念ながらその原因までは被験者の理由から判断することは出来なかった。

## 6. 6. 日本語－「反対」・英語－「賛成」の項目

## ボックス8

- |   |   |
|---|---|
| (6) 異論があるだと。よし、撃ってみろよ！                      | * (6) You disagree? Okay, <u>shoot!</u>                         |
| * (13) あのパンクしたタイヤを修理するのに1時間かかった。            |   |
| (14) 彼女に時間をずいぶんさいてやったよ。                     |   |
| (16) 時間がなくなってきたよ。                           |   |
| (17) 時間を配分する必要がある。                          | (17) You need to <u>budget</u> your time.                       |
| (18) ピンポンをする時間をとっておいてよ。                     |   |
| (21) 彼は借りてきた時間で生きている。<br>(= 思いがけなく長生きしている。) | (21) He's living on <u>borrowed</u> time.                       |
| (22) 君は時間を有益に使っていない。                        | (29) I don't think this relationship is <u>going anywhere</u> . |
| (31) ぼくらは行き話ってしまった。                         |   |

(6) には英語話者から「I see a image of someone shooting in my brain」という回答があった。英語話者にとっては、(6) はこのグループで他の三つの文より想像しやすい表現のようだ。一方で (6) (17) (21) において、日本語話者は反対という結果になっている。しかし、日本語話者にも賛成者は1人、英語話者にも反対者が1人となっており、統計的に見ても明確なことは言えず、まだまだ更なる調査の余地を残すところである。

特記事項として、日本語では (6) に対して「文章がうまく成り立っていないような気がしたから。よく意味がわからなかったから。」という理由が挙げられた。これは渡部他(1986)の訳では「撃って (= 言ってみろよ)」と記載されていたが、実際のアンケートでは「撃ってみろよ」であったために、この日本語話者にとって判断が難しくなったようである。

また、その他の英文は、「賛成」「反対」に二人ずつと賛否を決定できない結果となった。一方で日本語の「時は金である」の概念をもとにした日本語の (13) (14) (16) (18) (22) は英語話者に比べると、メタファーとして意識されていないという結果となった。

ここでも、また日米間で認識の差異が確認できたが、その原因までは得られなかった。

## 6. 7. 「どちらでもない」の項目

### ボックス9

(25) Look how far we've come. (訳：ごらんぼくらの愛が乗り越えてきた幾山河を。)

英文での (25) は「4 (neither agree nor disagree)」が多数の回答を得た。(25) だけの理由ではないが、「4 (neither agree nor disagree)」を選んだ理由として、「I did not know if it was a metaphorical expression or not」「I was confused as to whether the sentence was a metaphor or not」「I couldn't think of a reason to lean towards either end of the spectrum」という回答があった。英語話者にとっては賛成にも反対にも判断しづらいものもあるようだ。しかし、ここでの問題点は (25) の日本語文が英文の意識になってしまっていることだ。日本語は「ごらんぼくらの愛が乗り越えてきた幾山河を。」である。英文の「how far」が「幾山河」と訳された時点で、比較するには不適切な例文であったのかもしれない。

数的には少ないが「4 (どちらでもない)」「4 (neither agree nor disagree)」と判断された日本語・英文は他にも確認された。(詳細は表1・2を参照) 理由は以上に述べたこと同様であることが推測できるが、その明確な根拠は被験者からは得ることができなかった。

## 6. 8. 日本語と英語の賛否判断不可能の項目

ボックス10

- |  |   |
|--|---|
| (11) 君にやれる時間の持ち合わせはないよ。                    | (13) That flat tire <u>cost</u> me an hour.             |
| (29) この関係がどこかに到るとは思わない。<br>(=うまくいくとは思わない。) | (14) I've <u>invested</u> a lot of time in her.         |
|  | (16) You're <u>running out</u> of time.                 |
|  | (18) <u>Put aside</u> some time for ping pong.          |
|  | (22) You don't <u>use</u> your time <u>profitably</u> . |
|  | (31) We're <u>stuck</u> .                               |

日本文・英文合わせて八つの項目は、判断の度合いに差はあるものの、賛成か反対か判断しかねる結果となった。6.6.で述べたが、「賛成」「反対」が同数票になり、賛否を判断できなかった。

しかし、ここで明確なことは例文によって賛否の意見が分かれるのが多かったのは、英語話者の方であった。これは英語の方がメタファー内の差異が生じやすい言語である可能性を示唆している。言語自体なのか、環境に要因があるのか、あるいは被験者の経験なのかは、このデータからは明確に出来なかった。

## 7. 結論

本研究では大まかにではあるが言葉を見つめなおすことにおいては達成できた。この研究がなければ、今後メタファーを特に意識することがなかったかも知れない。また、次の研究のパイロットテストとしては多くの収穫を得た。

結論として、「日本語話者・英語話者の両者間において、メタファーの認識に差異は存在する。」という仮説は支持された。どんな差異かというと、日本語話者はメタファーへの認識があいまいで、英語話者はメタファーの認識が明確であるという差異であった。しかし、この理由は未解決である。また、特に「時は金である」の概念において、日本語話者の方が英語話者に比べると、比較的日常生活している度合いが高いようである。これは日本人がアメリカ人より「時」と「金」をより強く結びつけて、日常を生活していることを示唆しているのかもしれない。残念ながら、そのことを確かめるにはこのアンケートでは不十分であった。このことに対応して、「TIME IS MONEY」の概念の例文内で賛否の意見が分かれたのは英語話者のほうであった。これは日本語に比べて英語の方が、メタファーの解釈に差が生じやすいのではないかということを示している。

これら差異の原因としては、「言語的な面」と「文化的な面」があるようだ。なぜなら、言語的な面では、(25)の例文がヒントになっている。(25)の日本語は「賛成」という結果となったが、英文では「賛成」「反対」に一人ずつ、「どちらでもない」に二人というように、日本語とは異なる結果となった。これは、両者

のメタファーの含意(意図)は同じであるが、日本語は意識として表現方法が変わり、日本語話者にとってはメタファーらしい文になったためであろう。おそらく、翻訳という言語的な表現の変数が、メタファーの解釈の幅を広げてしまうのかもしれない。

逆を言えば、翻訳の精度でメタファーの解釈に差は生まれなくなると言うことである。ゆえに、日本語・英語間で相違点よりも類似点が多かったのは、日本語訳が原文を忠実に解釈していたためなのかも知れない。

このことを図式化すると以下ようになる。日本語・英語の変数において、白い部分がメタファーの含意(意図)を示し、日本語・英語の変数のずれが「言語的な差異」に当たる。差異には網掛けを施した。

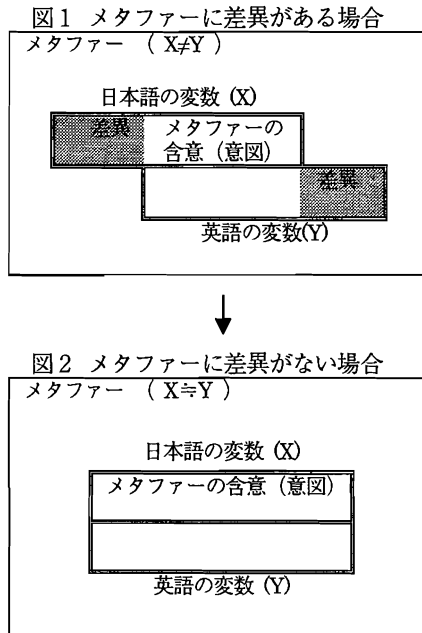


図1のように「 $X \neq Y$ 」では日本語と英語の変数が異なるため、差異が生ずることが分かる。しかし、図2のように「 $X \doteq Y$ 」では言語的な表現を限りなく近づけていけば、言語の変数のずれがなくなり、日本語・英語間のメタファーの認識のギャップは無くなる。

この図2を発展させて、差異の原因の一つと考えられる文化的な面を示す。これは被験者の社会的な立場や年齢、性別、つまり、社会背景が原因なのかもしれ



ない。

図3の中心のボックスは図2の差異のないメタファーであり、網掛けは両文化間の差異を示している。

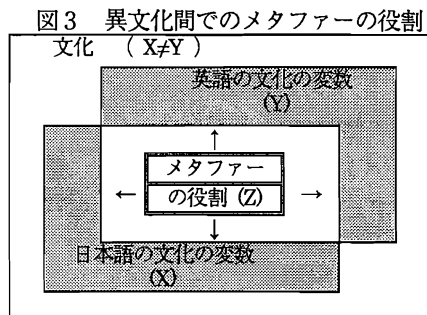


図3のように「 $X \neq Y$ 」は言語ではなく、それぞれの文化の変数が異なるため、メタファーは両文化の範囲内で自由に動き、その場所にに応じてメタファーの持つ役割 (Z) が変わる事が示唆できる。つまり、メタファーが言語的に限りなく等しければ、文化を変数として、日米間の文化的な差異を求めることが出来る。そして、メタファーは文化のどの領域に属するかで、メタファーの持つ役割 (メタファーの含意) が変わってくるだろう。メタファーを取り巻く環境、使う状況、使う人物等によって、メタファーの役割が変わるのだ。この役割を測るには更なる道具が必要である。一文ではなく、対話あるいは具体的な背景・文脈が必要となるし、被験者の詳細なデータも必要となる。

今回は日米間でメタファーの認識の差異を確認することが出来た。しかし、これは「言語内における差異」なのか、「文化内における差異」なのか、あるいは「どちらも含んだ差異」なのかは、まだまだ議論の余地がある。

次回の調査では、様々な立場、年齢層の被験者を対象に、これらの項目を日米で統一し、対話形式や背景・文脈を提示するアンケートで、メタファーの役割の違いを引き出す。そして、日米間のメタファーの認識の差異の仕組みを明らかにしたい。

#### 参考文献

Ellis, R. & Barkhuizen, G. (2005). *Analysing Learner Language*. Oxford University Press.

Lakoff, G. & Johnson, M. (1980). *Metaphors we live by*. Chicago University

Press.

Quirk, L. (1995). *Longman Dictionary of Contemporary English Third Edition*.

Longman group.

Winner, E., Rosenstiel, A. K. & Gardner, H. (1976). The development of metaphorical understanding. *Developmental Psychology*, 12, (pp. 289-297).

清川英男 (1990) 『英語教育研究入門』大修館

芳賀純, 子安益生 (1990) 『メタファーの心理学』誠信書房

松本曜 (2003) 『認知意味論』大修館

レイコフ・G, ジョンソン・M 原著, 渡部昇一, 楠瀬淳三, 下谷和幸 訳 (1986)  
『レトリックと人生』大修館書店

(岩手大学大学院教育学研究科教科教育専攻英語教育専修)

## 付録

アンケート  
《日本語話者用》

第一言語 ( ) 性別 ( ) 年齢 ( ) 出身 ( ) 学歴 ( )

以下の文が**比喩表現**かどうか判断してください。

比喩の定義として、

『「ようだ」を使わないで、あるものを他の何らかの関係のあるものに例えて表現する方法』

私はこの文が比喩表現であるということに ( )

7 (絶対賛成である) 6 (賛成である) 5 (やや賛成である) 4 (どちらでもない)  
3 (やや反対である) 2 (反対である) 1 (絶対反対である)

- |     |                                   |               |
|-----|-----------------------------------|---------------|
| 1.  | 君の主張は守りようがない。                     | 7・6・5・4・3・2・1 |
| 2.  | 彼は私の議論の弱点をことごとく攻撃した。              | 7・6・5・4・3・2・1 |
| 3.  | 彼の批判は正し的に射っていた。                   | 7・6・5・4・3・2・1 |
| 4.  | 私は彼の議論を粉砕した。                      | 7・6・5・4・3・2・1 |
| 5.  | 私は彼の議論に一度も勝つことがない。                | 7・6・5・4・3・2・1 |
| 6.  | 異論があるだと。よし、撃ってみろよ!                | 7・6・5・4・3・2・1 |
| 7.  | 彼は私の議論をすべて撃破した。                   | 7・6・5・4・3・2・1 |
| 8.  | 議論は戦争である。                         | 7・6・5・4・3・2・1 |
| 9.  | 君は僕の時間を浪費している。                    | 7・6・5・4・3・2・1 |
| 10. | この機械装置を使えば何時間も節約できる。              | 7・6・5・4・3・2・1 |
| 11. | 君にやれる時間の持ち合わせはないよ。                | 7・6・5・4・3・2・1 |
| 12. | この頃どんなふうにも時間を使っているの。              | 7・6・5・4・3・2・1 |
| 13. | あのパンクしたタイヤを修理するのに1時間かかった。         | 7・6・5・4・3・2・1 |
| 14. | 彼女に時間をずいぶんさいってやったよ。               | 7・6・5・4・3・2・1 |
| 15. | そんなことに費やせる暇はないよ。                  | 7・6・5・4・3・2・1 |
| 16. | 時間がなくなってきたよ。                      | 7・6・5・4・3・2・1 |
| 17. | 時間を配分する必要がある。                     | 7・6・5・4・3・2・1 |
| 18. | ピンポンをする時間をとっておいてよ。                | 7・6・5・4・3・2・1 |
| 19. | それは時間を費やすだけの価値があるのかい。             | 7・6・5・4・3・2・1 |
| 20. | 時間はたっぷり残してあるのかい。                  | 7・6・5・4・3・2・1 |
| 21. | 彼は借りてきた時間で生きている。(=思いがけなく長生きしている。) | 7・6・5・4・3・2・1 |
| 22. | 君は時間を有益に使っていない。                   | 7・6・5・4・3・2・1 |
| 23. | 病気になって、時間をたっぷり無駄にしてしまった。          | 7・6・5・4・3・2・1 |
| 24. | 時は金である。                           | 7・6・5・4・3・2・1 |
| 25. | ごらんぼくらの愛が乗り越えてきた幾山河を。             | 7・6・5・4・3・2・1 |
| 26. | 二人は岐路に立っている。                      | 7・6・5・4・3・2・1 |
| 27. | 別々の道を行かなければならなくなるだろう。             | 7・6・5・4・3・2・1 |
| 28. | ぼくらはもう引き返せない。                     | 7・6・5・4・3・2・1 |
| 29. | この関係がどこかに到るとは思わない。(=うまくいくとは思わない。) | 7・6・5・4・3・2・1 |
| 30. | わたしたちはどこにいるのかしら。(=どうなるのかしら。)      | 7・6・5・4・3・2・1 |
| 31. | ぼくらは行き詰ってしまった。                    | 7・6・5・4・3・2・1 |
| 32. | この関係は袋小路だ。                        | 7・6・5・4・3・2・1 |
| 33. | ぼくらは車輪を空回りさせているだけだ。               | 7・6・5・4・3・2・1 |
| 34. | ぼくらの結婚は暗礁に乗り上げている。                | 7・6・5・4・3・2・1 |
| 35. | ぼくらは脱線してしまった。                     | 7・6・5・4・3・2・1 |
| 36. | この関係は沈没しかかっている。                   | 7・6・5・4・3・2・1 |
| 37. | 恋愛は旅である。                          | 7・6・5・4・3・2・1 |

このアンケートは大学の論集に寄稿するために作成している論文のためのものです。記載して頂いた事以外の個人的な情報を公開することはありません。ご理解とご協力を宜しくお願い致します。ありがとうございました。

アンケート  
《英語話者用》

First language( )Sex( )Age( )Country( )Academic background( )  
Judge whether the followings sentences are METAPHORICAL expressions or not.  
As the definition of metaphor, “a way of describing something by comparing it to something else that has similar qualities, without using the words ‘like’ or ‘as’.”

- I ( ) that this sentence is a metaphorical expression.  
7 (strongly agree) 6 (agree) 5 (partly agree) 4 (neither agree nor disagree)  
3 (slightly disagree) 2 (disagree) 1 (strongly disagree)
- |  |               |
|--|---------------|
| 1. Your claims are indefensible.                       | 7・6・5・4・3・2・1 |
| 2. He attacked every weak point in my argument.        | 7・6・5・4・3・2・1 |
| 3. His criticisms were right on target.                | 7・6・5・4・3・2・1 |
| 4. I demolished his argument.                          | 7・6・5・4・3・2・1 |
| 5. I've never won an argument with him.                | 7・6・5・4・3・2・1 |
| 6. You disagree? Okay, shoot!                          | 7・6・5・4・3・2・1 |
| 7. He shot down all of my argument.                    | 7・6・5・4・3・2・1 |
| 8. Argument is war.                                    | 7・6・5・4・3・2・1 |
| 9. You're wasting my time.                             | 7・6・5・4・3・2・1 |
| 10. This gadget will save you hours.                   | 7・6・5・4・3・2・1 |
| 11. I don't have the time to give you.                 | 7・6・5・4・3・2・1 |
| 12. How do you spend your time these days?             | 7・6・5・4・3・2・1 |
| 13. That flat tire cost me an hour.                    | 7・6・5・4・3・2・1 |
| 14. I've invested a lot of time in her.                | 7・6・5・4・3・2・1 |
| 15. I don't have enough time to spare for that.        | 7・6・5・4・3・2・1 |
| 16. You're running out of time.                        | 7・6・5・4・3・2・1 |
| 17. You need to budget your time.                      | 7・6・5・4・3・2・1 |
| 18. Put aside some time for ping pong.                 | 7・6・5・4・3・2・1 |
| 19. Is that worth your while?                          | 7・6・5・4・3・2・1 |
| 20. Do you have much time left?                        | 7・6・5・4・3・2・1 |
| 21. He's living on borrowed time.                      | 7・6・5・4・3・2・1 |
| 22. You don't use your time profitably.                | 7・6・5・4・3・2・1 |
| 23. I lost a lot of time when I got sick.              | 7・6・5・4・3・2・1 |
| 24. Time is money.                                     | 7・6・5・4・3・2・1 |
| 25. Look how far we've come.                           | 7・6・5・4・3・2・1 |
| 26. We're at a crossroads.                             | 7・6・5・4・3・2・1 |
| 27. We'll just have to go our separate ways.           | 7・6・5・4・3・2・1 |
| 28. We can't turn back now.                            | 7・6・5・4・3・2・1 |
| 29. I don't think this relationship is going anywhere. | 7・6・5・4・3・2・1 |
| 30. Where are we?                                      | 7・6・5・4・3・2・1 |
| 31. We're stuck.                                       | 7・6・5・4・3・2・1 |
| 32. This relationship is a dead-end street.            | 7・6・5・4・3・2・1 |
| 33. We're just spinning our wheels.                    | 7・6・5・4・3・2・1 |
| 34. Our marriage is on the rocks.                      | 7・6・5・4・3・2・1 |
| 35. We've gotten off the track.                        | 7・6・5・4・3・2・1 |
| 36. This relationship is foundering.                   | 7・6・5・4・3・2・1 |
| 37. Love is a journey.                                 | 7・6・5・4・3・2・1 |

This questionnaire is just for the thesis made to contribute to collection of essays of Iwate University so I swear that your private information except what you wrote in this will not be exhibited. Thank you very much for your help.

事後アンケート  
《日本語話者用》

被験者（        ）

前回はアンケートに協力して頂きありがとうございました。  
今回は前回のアンケートを踏まえて、以下の質問にお答え下さい。

第一問

それぞれの文を判断するとき、賛成（7・6・5）を選んだ理由を教えてください。

第二問

それぞれの文を判断するとき、反対（3・2・1）を選んだ理由を教えてください。

第三問

7か6か5を選ぶとき、それは何を基準にして選びましたか。違いは何ですか。

第四問

3か2か1を選ぶとき、それは何を基準にして選びましたか。違いは何ですか。

第五問

4を選んだ方は、次の質問に教えてください。4を選んだ理由を教えてください。

このアンケートは大学の論集に寄稿するために作成している論文のためのものです。記載して頂いた事以外の個人的な情報を公開することはありません。ご理解とご協力を宜しくお願い致します。ありがとうございました。

事後アンケート  
《英語話者用》

Examinee ( )

Thank you very much for your previous help. This time, please answer the following questions while you think of the last questionnaire.

**Question 1**

When judging each sentences, write the reason you selected the agreement (7・6・5).

**Question 2**

When judging each sentences, write the reason you selected the disagreement (3・2・1).

**Question 3**

When choosing 7, 6, or 5, did you select it based on what? What is the difference between them?

**Question 4**

When choosing 3, 2, or 1, did you select it based on what? What is the difference between them?

**Question 5**

Answer the following question, if you selected 4. Write the reason you selected 4.

This questionnaire is just for the thesis made to contribute to collection of essays of Iwate University so I swear that your private information except what you wrote in this will not be exhibited. Thank you very much for your help.